

コウノトリの飛来について

平成22年4月30日現在

1 コウノトリが越前市に飛来し、連続30日間滞在を確認

- ・4月1日、越前市内の農地にコウノトリJ0008()とJ0016()が飛来した。
- ・この個体は兵庫県豊岡市において放鳥されたものである。
- ・4月30日現在も越前市内の農地で生息を確認できた。(連続30日間滞在)
- ・放鳥されたコウノトリの多くは、2から3日で兵庫県豊岡市に戻る。連続して30日の滞在は、比較的長い。(固体差があり5ヶ月間滞在していた事例もある。)

2 コウノトリの好む(採餌する)田んぼの状況

- ・水分が多く一年を通じて水が溜まっている状態
 - ・日頃からドジョウやカエルが多い田んぼ
 - ・農薬等が使用されていない、または低農薬で栽培されている自然状態の湿地環境に近い田んぼ
- 以上の田んぼを好む傾向が現れています。

3 コウノトリの観察でお願いしたいこと

- ・150m以上離れて静かに観察しましょう。
- ・写真撮影ではフラッシュを光らせないようにしましょう。
- ・自動車は周囲の通行の妨げにならないようにしましょう。

4 コウノトリ「コウちゃん」飛来40周年記念事業実行委員会設立

- ・越前市白山・坂口地区にコウノトリ「コウちゃん」が飛来し40周年を迎え、里地里山の保全再生に携わる関係者・団体がつどい、当地域の活性化を図ることを目的に設立された。
- ・設立の日 平成22年4月22日
- ・設立の準備を進めてきた団体 水辺と生き物を守る農家と市民の会
- ・中心となる記念事業
開催期日 平成22年11月6日(土)・7日(日) 講演会・交流会・食の文化祭等
- ・関連事業《サイドイベント》
コウノトリ呼び戻す田んぼサポーター事業(5月23日田植え)
里地里山シンポジウム(10月16日)
越前しらやま大使設置による「越前しらやま」PR事業(しらやま振興会)

1 コウノトリの滞在期間について

コウノトリの郷公園に滞在期間について問い合わせたところ、以下のような回答が得られました。今回は放鳥個体では無く、野外繁殖個体での記録を調べていただきました。

コウノトリ野外繁殖個体滞在最長記録

- ・ J0006 (メス) 2008年06月22日福田巣搭から巣立ち
愛媛県伊予市に5ヶ月間滞在
- ・ J0009 (メス) 2008年07月02日戸島巣搭から巣立ち
島根県出雲市に3ヶ月間滞在

これらの2個体は豊岡市以外での滞在が特に長い傾向を持つ。

上記2個体以外の野外繁殖個体

- ・ 個体によるばらつきが多いが、目撃報告がある場合おおむね2~3日間の滞在で豊岡に戻る。
- ・ 短い個体は1日で豊岡に戻るケースもある。
- ・ これらのことをふまえると、今回越前市に滞在している30日間の期間は比較的長い。

2 コウノトリの行動および採餌する田んぼの状況について

越前市エコビレッジ交流センターが調査した「越前市飛来コウノトリ J0008 と J0016 の行動および生息環境について」報告を記載します。

2010年4月1日、越前市内の農地にコウノトリ J0008()と J0016()が飛来した。この個体は兵庫県豊岡市において放鳥されたものである。そのうち、J0016は、4月30日現在も越前市内の農地で生息を確認しており、その行動と生息環境について要約して報告する。

4月1日のコウノトリ J0008 と J0016 の行動は、主に採餌であった。両個体ともガマの生えた休耕田でカエルなどを採餌していた。4月2日以降の J0008 と J0016 は別々の行動を行い始める。J0008 はその後、豊岡市へ移動。J0016 は越前市内の農地で主に採餌する行動を確認する。4月2-3日はほぼ同じ農地で採餌を行う。この農地は、水分が多く一年を通じて水が溜まっている状態であり、5年ほど前まで約10年間、有機農業による稲作を行っていた水田との説明を受けた(土地所有者談)。現在は、低農薬で栽培し、日頃からドジョウやカエルが多いとのこと(土地所有者談)。4月4日以降は採餌する場所を頻繁に変える行動へと変化している。これは、一ヶ所当たりの餌量が少なくなり始め、頻繁に採餌場所を変えるためと考えられる。4月30日現在も越前市内の農地にて採餌する行動を確認している。

コウノトリ J0016 の採餌する環境選択について述べる。最も好む採餌環境として水が溜まり水分の多い休耕田を選ぶ傾向がある。4月1日発見時、その後も休耕田を積極的に選択する傾向がある。これは、農薬等が使用されておらず、自然状態の湿地環境に近いこと。カエル類やその他、餌となる小動物が生息するためと考えられる。次に好む環境として、低農薬や冬季も水が溜まり

続けている水田を選ぶ傾向がある。これも、休耕田と同様に餌となる生物が生息しているためと考えられる。さらに、その次に好む採餌環境としては、部分的に水が溜まっている水田を選ぶ傾向がある。以上の通り、コウノトリ J0016 にとって最も好む環境は自然の湿地状態に近い休耕田と言えようが、休耕田は、放置し続けると、湿地状態から草地化し、やがて樹木が生長するため、現時点では良好な採餌環境であってもやがて植物遷移が進み、コウノトリは生息できない環境へと変化する。コウノトリにとって良好な採餌環境を維持し続けるためには、水田を維持し続ける必要がある。上記の通り、コウノトリの生息そして定着のためには、冬季も水が溜まり、低農薬など餌となる生物が豊かな環境が必要であると言えよう。

この報告の問合せ先

越前市エコビレッジ交流センター 担当 長野

〒915-1225 福井県越前市湯谷町25-25-2

TEL・FAX 0778-28-1123

E-mail: ecovilg@tk.ttn.ne.jp

3 コウノトリの観察ルールの合意について

4月5日、白山・坂口地区の里地里山の保全活動関係者、野鳥の会関係者、白崎町区長、越前市関係課が集まり、越前市におけるコウノトリの観察ルールを協議しました。

普及に当たっては、次のことを注意するようにしています。

強制力はないので、あくまで「お願い」というスタンスで。

コウノトリを刺激しないよう、驚かさないように、と言うくらいの目安に。

白山地区、王子保地区では、4月15日号の公民館便り等に掲載し注意を喚起しています。

越前市では、この観察のルールをホームページに掲載しています。

4 40周年記念事業実行委員会設立について

なぜ、今年記念事業をするのか？

本事業を遂行する理由として以下のようなことがあげられる。

- 越前市白山・坂口地区にコウノトリ「コウちゃん」が飛来し40周年を迎えた。
- 昨年、コウノトリ呼び戻す農法部会が発足し、無農薬・無化学肥料栽培による稲作が広まりつつある。
- これまで越前市西部地域では、活発な里山環境の保全活動が行われ、環境省の里地里山保全再生モデル事業のモデル地域にもなっており、全国に誇れる自然環境と生物多様性を有している。
- 本年は、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が行われる年でもあり、この中で日本は、古くから培ってきた自然共生の智慧と伝統を『SATOYAMA イニシアティブ』と名づけて世界に提案することを予定しており、里山の生物多様性保全活動が注目される。

これらの要因を包括し、越前市西部地域において里山生態系の頂点であるコウノトリを

シンボルとし、地域一丸となって「再びコウノトリの舞う、人も生き物も元気な里づくり」を推進するため地域の人々に白山・坂口地区の良さを再認識してもらい、地域活性化につなげることを目的とする。

実行委員会の構成団体

- (1) しらやま振興会
- (2) 坂口地区うららの町づくり振興会
- (3) 白山地区区長会
- (4) 坂口地区区長会
- (5) 白山小学校
- (6) 坂口小学校
- (7) 武生第五中学校
- (8) 越前市商工会白山支所
- (9) 越前たけふ農協西部基幹支店
- (10) コウノトリ呼び戻す農法部会
- (11) 白山土地改良区
- (12) コウちゃんを愛する会
- (13) 水辺と生き物を守る農家と市民の会

問合せ先

越前市農政課
里地里山再生推進室長 土田信義
〒915-8530 越前市府中1丁目13-7
e-mail:tsuchida_ws@city.echizen.lg.jp